

プロジェクト名：ラトヴィア国プロジェクト形成調査（環境分野）

（調査期間：1998年3月～2000年、担当業務：自然環境）

調査背景

ラトヴィア国の環境はソビエト連邦時代に深刻なダメージを被ったことから、スウェーデン国等の北欧諸国ならびに世銀等の国際機関は、これまでに環境分野における協力を優先的に実施しており、我が国からの支援に対する期待も大きいものであった。同国の環境問題は広範にわたっており、本プロジェクト形成調査においては、都市環境問題、自然保護問題、越境環境問題の全般的状況、緊急性、ドナー毎の協力状況、今後の支援可能内容等を幅広く調査した。

調査概要

自然環境保全分野では、全般的な調査と同時に、既請案件であるルバナ湿地帯総合管理計画の背景調査を実施した。ルバナ湿地帯は、ラトヴィア最大の湖・ルバナ湖を中心に広がっており、渡り鳥の中継地や留鳥の繁殖地として重要であり、大型猛禽類の豊富さが生物多様性の高さを物語っている。そのため、次期ラムサール条約指定地候補と考えられている。湖の周辺には、養魚場、植林地、農耕地が分布しており、各セクターが湖の水位及び水質をめぐる、周囲の生態系と密接に関わりあっている。例えば、春期の氾濫は氾濫原に特有な草を育み、鳥類にとって重要なビオトープを形成する一方、洪水が地域住民に悪影響を及ぼしている。夏期には、湖での漁業には高水位が望ましく、生態系の保全には低水位が望ましいとされている。そこで、湿地生態系及び生物多様性保全のための環境管理計画策定を主な目的とした我が国の協力可能性を調査し、優良案件の発掘・形成の検討を行った。

担当事項

- 生態系保全に関連する行政、組織、法規、ガイドライン、研究体制等の情報収集及び解析。
- 湿地生態系保護に重点を置いた自然環境保全分野における先方ニーズの把握。
- 国際機関、他国援助機関、NGO等による環境保全分野での協力状況やIUCNの取り組みの把握。
- ルバナ湿地帯における生態系保全、ならびにエコリズムを含む自然資源利活用の現状調査。
- 我が国の協力可能性の検討、ならびに開発調査を含む優良案件の発掘・形成の検討。

